

ご挨拶

公益財団法人 民間放送教育協会

会長 吉永 みち子

昭和 42 年に、放送を通じて教育の振興と機会均等に寄与するという志のもと、民間放送教育協会は産声を上げました。当時 23 %ほどだった大学進学率は、50 年後には 50 %を越えました。その過程で、激しい受験競争は低年齢化し、教育はお金がかかるものになり、その結果、教育格差は広がり昨今は格差の固定化が心配され、ついに子どもの側から「親ガチャ」なる深い諦めの言葉が流行るようになっていきます。

教育機会がすべての子どもに平等に与えられる社会は遠く、不登校の子どもは増加を辿り、半世紀前に目指した教育環境は達成されないばかりか、複雑に屈折しながらむしろ遠のいていくような印象さえ受けます。さらにコロナ禍の 3 年で社会構造の変化が急速に進み、それがどんな影響を及ぼしていくのかもわかりません。

一方、放送と通信の融合により放送界も大きな変化に見舞われています。そんな混沌の中だからこそ、私たちは掲げた理念の原点に立ち返り、これまでの延長戦上の発展ではなく、教育とは何なのか、放送を通じて何ができるのかをもう一度真剣に考えなければならないのだと思います。

東日本大震災の折、釜石小学校の校歌が話題になりました。ひとりひとりが自分の足で立ち、自分の頭で考え、考えたらしっかり話し、お互いの違いを尊重しながら共に生きるという井上ひさしさんの手になる歌詞は、教育とは何なのかという問いに、かなり明確な示唆を与えてくれているように感じました。

「どうするか」を考えない人に、「どうなるか」は見えないというのは野村克也さんの言葉でした。この厳しい状況に、私たちはどう向き合っていくのかと様々な機会を通じて考えていかなければならない。その中にこそ、私たちは何をなすべきかというこれからの民教協の目指すべき道があるのだと思っています。



CONTENTS

2023 No.60

ご挨拶

崔 洋一さんを偲んで

民教協番組紹介

日本のチカラ	3
民教協スペシャル	6

番組選奨



「日本のチカラ」各賞授賞報告	9
文部科学大臣賞	
「牛と生きる ～長崎・鷹島…あったか家族～」 長崎放送	11
総務大臣賞	
「ふわふわニコニコ大山ライフ ～都会から来た風来坊～」 山陰放送	12
民教協会長賞	
「被爆樹木の声を聴く ～広島の永遠のみどり～」 中国放送	13
中小機構理事長賞	
「なんでもやる！ ～高知のエジソンのDNAを未来へ！～」 高知放送	14
JAグループ賞	
「生きがい～障がい者支援の現場から～」 大分放送	15
奨励賞＜4作品＞	
「全盲先生から生徒へ～ラストメッセージ～」 テレビ朝日	16
「夕凧に吹く風～福島・原発の町からのメッセージ～」 信越放送	16
「幸せの夢をよぶ～山形唯一のミニデパート物語～」 山形放送	17
「カバンおじさんとアボカド～東かがわ発！地域の技を未来へ～」 西日本放送	17
プロデューサー特別賞	
「歌う葬儀屋さん～下北半島でつなぐ命～」 青森放送	18
番組トピックス	18
「日本のチカラ」年間放送リスト（2022年度）	19

「テレビのチカラ」大会報告

全国大会 秋田	20
北海道・東北・関東・甲信越地区大会 長野	21
中部・北陸・関西・中国地区 米子	22
四国・九州・沖縄地区大会 香川	23

民教協の事業

小学校授業支援事業	24
子どものための読み聞かせ事業	25

民教協からのお知らせ	26
理事・監事・評議員名簿	27
2022年度の主な活動	28

しの 崔 洋一さんを偲んで



長年、民教協の理事として、
民教協スペシャルの審査委員も
務められた 崔洋一さんが
二〇二二年十一月二十七日
逝去されました。



崔さんと最後に会ったのは、昨年6月。「本当はダメなんだけど」と笑いながら、小さな盃一杯のお酒を2時間かけて舐めて実いろいろなことを話しました。帰り際、近いうちに絶対また会おうねという約束が果たされることはありませんでした。

崔さんと出会ったのはもう20数年前。やじうまワイドという番組に出演していた気の合う仲間での飲み会でした。「黒田家の人々」と名付けて続いた会では、父親が黒田さん、長男は大澤弁護士などと一家に擬して、双子の兄妹という役どころが同い年の崔さんと私。大いに飲み、食べ、しゃべりまくった楽しい時間は、今でも忘れられない思い出です。

民教協の選考会でも、病を得てからの崔兄ちゃんは、時に厳しすぎるのではと心配になるほど真剣に映像の作り手たちに迫っていたように思います。きっと、残された時間に伝えたいことが山のようにあったのだと思います。どうかその言葉を、その思いを時々思い出して、崔さんの熱さ、暖かさを忘れないでほしいと願っています。

民教協 会長 吉永 みち子

崔洋一さんは2008年から「民教協スペシャル」の審査委員長を務めてくださっていた。毎年、加盟各局から2、30件の企画作品の応募があり、企画書などの書類審査で選ばれた数点から、翌年に全国放送されることになる最優秀企画を崔さんたちの第二次審査で選び出す。崔さんはその審査の状況を理事会で簡潔に報告するのが常としていた。

「応募作品の数がだんだん減ってきているのが心配だ。企画の質の問題も出てきている」

崔さんが現場の制作力が弱ってきているという危機感を理事会で表明したのは2017年だった。全国のテレビ局で世代交代が進むなか、勃興期から現場に蓄積してきた映像への気概やスキルはきちんと次の世代に受け継がれているのか。そんな懸念を崔さんは翌年もより強い調子で嘆き、「ぜひ全加盟社にしっかり伝えて」と要請した。

私たちはこの指摘を各社に伝えるとともに、崔さん自身に新しい試みをお願いした。崔さんたちの第二次審査の「公開」である。

第二次審査は候補作品のディレクターが数分のVTRを使いながら、審査委員や他の候補たちの前で構想や狙いをプレゼンし議論をする。崔さんはとにかく激しい。「それをどうやって撮るんだ」「本当に覚悟はあるのか」は序の口、「バカヤロー」まで出る。制作者側の気迫や真剣さをあぶりだそうと語気は鋭く、見ている方がハラハラするが、そこには映像と表現で長年格闘してきた崔さんの神髄がのぞいている。これこそ民教協として次の世代に伝えなければならないものだとも私たちは考えた。

崔さんたちは公開に快く応じてくれた。2019年3月、初の公開審査に候補社以外からも10数人が傍聴に訪れ、熱いやり取りにかたずを飲んだ。コロナ禍で審査会がオンラインになっても公開は続いた。

2年後、崔さんは理事会で、応募数が依然減少している、ゆゆしきことだ、と再び声をあげた。そして、ドキュメンタリーとは何かを議論する勉強会を開いてほしい、自分と審査委員の森達也さん、星野博美さんとで講師を引き受けること提案し、「この3人を使い倒してほしい」とまでおっしゃった。

勉強会は何度か計画されたもののコロナがなかなか収まらず、2021年秋、ようやくオンラインでスタートした。その翌年、崔さんは帰らぬ人になった。

あとで分かったことだが、崔さんが「使い倒してほしい」といったとき、崔さんはご自身の病氣と静かに闘っていた。病身を押し自らが前面に出ても映像にかける気概・情熱を次の世代に残したい。崔さんの壮絶な思いが伝わってくる。

その志を私たちは引き継ぎたいと思う。崔さん、ありがとうございました。

民教協 前理事長 吉田 慎一

◆とにかく崔洋一は恐ろしい。今まで出会った人間の中でも、ダントツに恐ろしい。きつといろんなことがあって、あの風体と物言いが醸成されてきたに違いない。民SPの二次審査や試写会で浴びせられる強烈なコトバには、誰もが震えあがった。ところが飲みに行くと、なんでもなかったかのようにコロッと変貌する。柔和な表情で、とめどなくしゃべり続ける。

◆おしゃべりの内容が、ほとんど理解できないのもまた「博覧強記のラスボス」たる所以だ。私がこのキャッチフレーズを付けたとき、ボスは少し嬉しそうだった。ちなみに森達也さんは「孤高の言論スナイパー」、星野博美さんは「ひまわり畑に咲くスズラン」。みんなで飲みに行ったとき、今まで見たイチパンの映画は？という話になった。私は躊躇なく「血と骨」と答えた。ボスは一瞬、ほんとかよ？と訝しがったが、それでも嬉しそうだった。

◆2016年の初夏、崔さんと旅番組のロケで関西に行った。スターフライヤーの「美食幻影」というスタイリッシュ番組で、古き良き町並みを歩き、老舗BARで語り、食を愛でるといったもの。予算がないので私がD兼カメラ、音声さんとAD、計4人での強行スケジュール。このときの崔さんには、ひれ伏すほかなかった。「アニキ」は本当に優しくてオトナだった。

◆小さな店が迷路のようにひしめくコリアンタウン、鶴橋。キムチ専門店や鮮魚店、ホルモン店を巡り、休憩をかねて名もなき食堂に入る。刺身をアテに瓶ビールをぐいっ…。「こういうさ、ささやかな楽しみを知ってるか知ってないかで人生、大違いなんだよな」…アニキはとても幸せそうだった。

◆散歩シーンは当時発売されて間もない「OSMO」というスタビライザー・カメラで撮影した。「そのカメラ、いくらすの？」とアニキは興味津々。やはり映画監督は「カメラ」って言うんだといたく感激した。そうこうしているうちに、美食シーンとなる。

◆静かな湖畔に佇むレストラン。おしゃれな懐石コースを短時間で撮影しなければならぬ。料理のブツ撮りも時間がかかる。段取りに悩む。アニキに相談すると「おまえさんがイチパンやりやすいようにすればいいよ。オレのことは気にしないでいいから。いい画撮ってよ」…なんと、照明やテーブルセッティングも手伝ってくれた。スタッフへの気づかひも、ただものではない。

◆料理を味わい、コメントし、店主と語らう…そんななんでもないシーンなのに、何かが違う。そう、箸使いやテーブルマナーが圧倒的に美しいのだ。様々な芸能人の収録現場に立ち会ってきたが、ほとんどが残念な感じだった。あの風体で、所作が美しいというのは罪だ。「食べ方や箸使いがきれいで、びっくりしました」と伝えるとアニキは「そうかあ？」と静かに微笑んだ。



海辺にて

◆崔洋一から学んだこと…たくさんありそうで、具体的なことは一切思いつかない。そこが大物の証なのかもしれない。本当にすごい人は、何周もして「無」なのかもしれない。

◆番組のエンディングで、閑空をのぞむ海辺へ行った。旅のシメの感想を撮るはずだったが、イメージ映像だけにした。アニキの笑顔があまりにも素敵だったから。無言でそこにいるだけで、ただただ、かっこよかったから。

◆アニキとは、もっと飲みたかったです。ほとんど理解できない話を、もっと聞きたかったです。「バカヤロウ」と、もっと怒鳴られたかったです。あちらの世界でも、スゴミのある、かっこいい男でいてください。ちょっぴり寂しいけれど、たまにアニキのことを思い出して地道に頑張っていきます。本当にありがとうございました。



老舗BAR



鶴橋の迷路



名もなき食堂

博覧強記のラスボス

総合プロデューサー 雪竹 弘一

日本のチカラ

NIPPON NO CHIKARA

2023年度 ラインナップ ※5月時点でのラインナップです。変更の可能性がございます。

放送回	東京地区放送日	サブタイトル	制作局
337	4月22日(土)	幸せフラガール	山口放送
338	4月29日(土)	あのおおぞらをもう一度～津軽海峡に旗を振れ！～	青森放送
339	5月6日(土)	口福(こうふく)の献立～お腹と心を満たす嚙下食(えんげしょく)～	山形放送
340	5月13日(土)	横山家は1馬力～ようこそ!信州里山暮らし～	信越放送
341	5月20日(土)	"キラ星"たちの春～北の大地を巣立つ～	北海道放送
342	5月27日(土)	103歳 哲代さんはひとり暮らし	中国放送
343	6月3日(土)	秘境の森はゆうえんち～村のトム・ソーヤーと子どもたち～(仮)	宮崎放送
344	6月10日(土)	映画館がない街なんて～立ち上がった主婦～(仮)	朝日放送テレビ
345	6月17日(土)	令和の"よるすや"～のぶちゃんは、地域の何でも応援団～(仮)	テレビ朝日
346	6月24日(土)	介護の救世主 ウチカ～モンゴルから来たチャンピオン～(仮)	山形放送
347	7月1日(土)	子ども記者が行く!まちの新聞「名山(めいざん)新聞」(仮)	南日本放送
348	7月8日(土)	永遠の秘境に～たった1人の集落で暮らす～(仮)	高知放送
349	7月15日(土)	患者さんに未来を届ける～がん治療で世界をリードする医師～(仮)	テレビ朝日

番組の詳しいラインナップや各局の放送時間は

民教協



#337



幸せフラガール

野口のあさん(21)は、幼いころからフラに夢中です。なぜなら、生まれ育った山口県の島が、かつてハワイへと大勢の移民を送り出した島だから。やがて、のあさんはハワイへと留学することを決意します。フラをもっと深く理解するために、ハワイの歴史を、文化を、空気を肌で感じたいと考えました。

いま、移民の子孫たちと共にハワイの島で暮らすのあさん。自分がフラを踊る意味、そして、島同士の結びつきの意味を改めて考え始めています。

山口放送 山崎 真哉(報道制作局テレビ制作部)

#338



あのおおぞらをもう一度 ～津軽海峡に旗を振れ！～

津軽海峡に面した青森県大間町で「まちおこしゲリラ」として、20年以上活動を続けている島康子^{おおまこ}さん。大間町をマグロの町として知られるようにした立役者だ。憧れた都会からUターンして、強烈な個性と斬新な企画で町を盛り上げている。

心配なのは、まちおこしのその後。次世代への継承だ。仲間と結成した「あおぞら組」で見た感動と情熱を伝えようと奮闘する、底抜けにパワフルな島さんの姿と、新しい世代の挑戦を描く。

青森放送 内山 匠(報道局報道部)

#339



こうぶく

口福の献立

なか

えんげしょく

～お腹と心を満たす嚙下食～

えんげしょく

嚙下食。ってご存じですか？

病气や老化に伴い、食べ物をうまく飲み込めない人のための料理です。そのため細かく刻んだものなど原型をとどめていないのがほとんど。栄養は効率よく摂取できますが「目で楽しむ、という点では少し寂しい気も…。舞台は高齢化が進む山形県。主人公は料理人の延味克士さん。彼が作る嚙下食は一味違います。90代女性は涙を流して喜び、70代男性は「生きていてよかった」と満面の笑み。嚙下食を通して「食べる幸せ」を見つめます。

山形放送 三浦 重行 (報道制作局長)

#340



横山家は1馬力

～ようこそ！信州里山暮らし～

長野県伊那市の山間で馬耕や馬搬をしている横山晴樹さん。相棒は19歳の牡馬、ピンゴです。

横山家はテレビ無し、エアコン無し、薪で風呂を沸かし、かまどでご飯を炊く現代社会の対極にあるような暮らしですが、不登校や生活リズムが乱れた現代っ子たちが山村留学生としてやってきます。穏やかなピンゴの力も借りて、子どもたちは横山家での生活を通して何を感じるのか。子どもの個性を温かく包み込む横山家の営みを四季の移ろいととも描きます。

信越放送 依田 倫博 (情報センター制作部)

#341



“キラ星”たちの春

～北の大地を巣立つ～

「この高校は芸のこやしになる」と話す落語研究会の部長。「毎日が濃い」と笑うのは口笛の世界チャンピオン。中学で不登校だった女子生徒はここで皆勤賞を達成…。

北星余市高校ほくせいよいちに集まる生徒たちは経歴も出身地も様々です。彼らと3年間向き合ったベテラン教師はこの春、定年退職。生徒たちに贈った言葉は…「ありがとう、と、ごめんなさい、が言える人になってください」。

キラ星たちの旅立ちを爽やかに描きます。

北海道放送 河野 啓 (コンテンツ制作センター)

#342



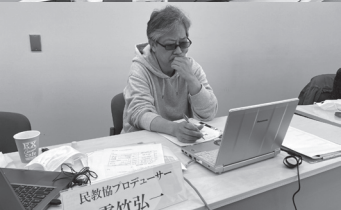
103歳 哲代さんはひとり暮らし

100歳まで生きたいという人の割合が、わずかに2割といういま、人生100年時代のヒントは、ここにあるかもしれません！

広島県尾道市で103歳となった今も、ひとり暮らしを続ける石井哲代さん。持ち前のユーモアと明るさで周囲からも「先生」と慕われ大人気です。一方で、長年連れ添った夫とは20年以上前に死別し、子どもはいません。それでも笑いながら暮らす姿は、暗闇を照らす小さな灯。

きっと、これから老いる私たちに優しく励ましてくれます。

中国放送 山本 和宏 (株式会社RCCフロンティア 制作部)



最優秀企画賞は

「君たちと見たもの ～全盲先生の37年～」(仮)に決定

「民教協スペシャル」は、公益財団法人 民間放送教育協会に加盟している全国のテレビ局の制作者が、年に一回、渾身の企画を提出し、厳正な審査を経て最優秀企画賞に選ばれた企画を放送するものです。

1986年以來37回の放送を数え、これまで数々の賞を受賞しています。

第38回の企画募集(2024年2月放送予定)では加盟20局から32企画の応募があり、映画監督・作家の森達也さん、ノンフィクション作家の星野博美さん、民教協の雪竹弘一プロデューサー、3名の審査委員による厳正な企画審査が行われました。

一次審査を通過したのは以下の5作品です。

そうたくんが泣いた日 そうたくんが笑った日(仮)	東北放送	井上 千晴
パク・インチョルのリスト「満州移民外伝」(仮)	信越放送	手塚 孝典
君たちと見たもの ～全盲先生の37年～(仮)	テレビ朝日	猿渡 研二 (FLEX)
村上ファンドとふたりの娘(仮)	テレビ朝日	溝上 由夏・岡林 佐和 外山 薫・進 優子
女と男と仕事と私 ～働く女性の私的記録～(仮)	メ〜テレ	菅原 竜太

この5作品について、約5分のプレゼンVTRとブラッシュアップされた企画書をもとに、4月3日、二次審査が行われました。

森達也さん、星野博美さん、雪竹プロデューサー、3名との真剣な質疑応答の結果、テレビ朝日(FLEX)猿渡研二さんの「君たちと見たもの ～全盲先生の37年～」(仮)が最優秀企画賞に選ばれました。

審査後の講評では、森達也さんから「退職してもなお強い信念で前を向く、ヨシノリ先生の生き様に深く迫ってほしい」、星野博美さんから「ヨシノリ先生は聖人君子ではない。人間臭さが一番の魅力。全国の人に見ていただきたい」というコメントを頂きました。

今回の企画では、猿渡さんが長期に渡り追いつけてきた先生の苦悩、希望、教育の本質と向き合い、人間の生きる力を描き出します。





第38回 民教協スペシャル 最優秀企画賞

2024年2月放送予定



見える人生と、
見えない人生、

二度楽しんでいきます

「君たちと見たもの ～全盲先生の37年～」

「見える人生と、見えない人生、2度楽しんでいきます」

こんな言葉をさりりと口にするヨシノリ先生。

その先生の言葉や歩みを多くの人に見てもらえる機会をいただきありがとうございます。

全盲の国語教師・新井淑則さん、通称ヨシノリ先生は視力を失いながら普通中学校で教鞭をとり続けた異色の教師です。

「見えない先生」が中学生にどうやって教えるのか… その素朴な疑問が取材のはじまりでした。

教室では驚きの連続。目が見えなくても黒板に字を書き、新年度の度に生徒全員の声でICレコーダーで覚える。生徒たちはヨシノリ先生の荷物を持ったり、給食の補助をしたり、サポート役を買って出る。「生徒の前にいるだけで、生きる力をつけられる存在」だというのを目の当たりにしました。

取材を通して感じるのは、人間讃歌、でした。人生は時に残酷で理不尽で儂いもの。でもその一方で、人間は遅しくて勇敢で優しい。ヨシノリ先生は聖人君子ではありません。時に愚痴をこぼし、時に弱音を吐くこともあります。でも、その飾らない人間臭さが最大の魅力です。

2022年春。ヨシノリ先生は定年を迎え71人の3年生と共に卒業し、教師の仕事にピリオドを打ちました。「これから“全盲教師”として何ができるのか…。新たな夢に向け一歩を踏み出そうとする矢先、大きな苦難に直面してしまいました。

先生が、教育現場に遺したものは何だったのか。紡いできた声に耳を傾け、見る人の心に優しい光をともす。そんな番組を目指したいと思っています。

テレビ朝日(株式会社フレックス) 猿渡 研二

第37回 民教協スペシャル

2023年2月11日（土）・12日（日）放送



「私の中のかげらたち ～虐待を生きる 22歳～」

「葛藤はあったけれど、伝えられてよかったです、今は思っています。」
番組の主人公・さくらさんは、放送後しばらくして、私にこう打ち明けてくれました。

さくらさんが生まれたのは、日本に児童虐待防止法が制定された2000年のこと。世の中に「児童虐待」という言葉が浸透し始めた頃でした。あれから23年。さくらさんは、夢をかなえて新米教師として小学校で働いています。それでも幼い日の虐待の記憶に、心と体もついでいかれそうになるほどの生きづらさと隣り合わせです。

児童相談所の虐待相談の件数は年々増加の一途をたどり、20万件を超えました。もしかしたら、すぐそばに「虐待の疑い」がある子どもがいるのかもしれない。それでも私は、驚くほど「児童虐待」について知らないことに気づかれました。

さくらさんに出会い、ニュースでは決して報道されることのない、見えない「児童虐待」を知り、このテーマをできるだけ丁寧に描きたいと思いました。虐待による傷は、幼少期の一過性のもではなく、大人になってもずっと痛み続ける傷だということもわかりました。そして、その行為者もまた、何らかの傷とともにあることも。

さくらさんの言葉や、母親の語りにも、たくさん視聴者から反響をいただきました。「同じ生きづらさを抱えています」という虐待体験者の声。「たくさんのかげらさん」を現実を感じています」という福祉、教育現場の声。「家庭に立ち入らないというのは社会が作ったフィクションだと気づきました」と語る法曹関係者。「さくらさんの姿に生きる勇気をもりました」という感謝の声。それぞれの立場で、さくらさんを受け止めて、感想を寄せていただけましたこと、制作者冥利に尽きます。

その中で、「児童虐待を『見えない、見えづらい』というけれど、私たちは見る力を養っているのでしょうか」という感想がありました。

「児童虐待」は、虐待を受ける側も、虐待行為をする側も、目撃する家族も、当事者性を持ちづらいといわれています。生まれた時から虐待を受けている子どもは、それが「虐待」だとわからない。行為者も、無自覚のまま習慣化する。家族にとっては、当たり前前の光景になる。「児童虐待」の当事者になりえるのは、周りにいる私たち、第三者だそうです。

「子どもと親のSOSに気づき、それを、他の誰かに伝えて、当事者を増やすこと」その気づきのきっかけに、少しでもなれたら幸いです。

最後に、番組制作から放送まで、このような貴重な機会をいただけたことに、心から感謝いたします。

信越放送 情報センター報道部 中村 育子



文部科学大臣賞

生涯学習も含め、もっとも価値があると思われる番組

牛と生きる ～長崎・鷹島…あったか家族～

制作：長崎放送

選出理由 「生命」の教育番組として素晴らしい作品。生き物を扱う貴重な映像の制作努力も評価できる。生涯学習、地方創生、教育、食育など、全体のバランス・構成がとても良い。家族の表情も自然体で描かれている。親の背中を見て仕事へのやり甲斐を子どもが受けとめ「牛飼いになりたい」と言うシーン、経済動物を飼育することの葛藤（ザックンとの別れ）も心を打つ。



総務大臣賞

地方創生に寄与する番組

DAISEN ふわふわニコニコ大山ライフ ～都会から来た風来坊～

制作：山陰放送

選出理由 Iターン移住者がどのような生活（仕事）をし、地域に入っているかがとてもよくわかる番組。地域おこし協力隊の限界（課題）にも触れており、総務省関係者や移住を考えている方にぜひ見てもらいたい。番組中の「地元の方に溶け込んで上手につながりを見つけている」という言葉が印象に残ったが、これこそが移住が成功するための本質であると考え。



民教協会賞

テレビ番組としての評価の高い番組

被爆樹木の声を聴く ～広島の永遠のみどり～

制作：中国放送

選出理由 反戦を描くのではなく、淡々と切実に表現した制作者の真摯な眼差しに共感する。緑がよみがえるとき再び平和が訪れるという気持ちにさせてくれる。「被爆樹木」は地元では知られているが、日本全体では認知度が低いことを啓蒙した点で、教育番組としても文化的番組としても価値がある。そして映像が美しい。美しいだけでなく、ここから復興したのだというすごみを感じた。

日本のチカラ

NIPPON NO CHIKARA

2022年度 番組選奨

3月20日2022年度「日本のチカラ」番組推奨の選考会議が行われ、10作品が選出されました。「総務大臣賞」では、総務省大臣官房広報室長・君塚明宏さん、「中小機構理事長賞」では、中小機構理事長・豊永厚志さん、「JAグループ賞」では、JA全中・広報部 長谷川健一さんも事前選考に加わりました。

評価委員

奥山 睦（静岡大学大学院客員教授）

鈴木 美伸（上智大学非常勤講師）

星野 博美（ノンフィクション作家）



選考にあたっては「多くの人に見てもらえる生涯学習番組」の目標に沿って「日々の生き方、地域ならではのリアル」がどれだけ丹念に描かれていたか、未来への可能性を感じ取れたか、番組として純粋に楽しめたか、といった点も参考とされました。



奨励賞（4作品）

価値のある番組、また今後に期待したい番組

幸せの夢をよぶ ～山形唯一のミニデパート物語～

制作：山形放送

選出理由

消えゆく昭和の買い物文化と、その中でもできることを考え、必死に模索する池田屋さんの取り組みを素直に応援したくなる。老舗百貨店の古き良き伝統の継承とマネジメント手法を、新旧経営者である親子の対比で描いていた点も良かった。対面販売の伝統をぜひ守り続けていただきたい。

ゆうな

汐風に吹く風 ～福島・原発の町からのメッセージ～

制作：信越放送

選出理由

過去を忘れまいとする父親と、思い出したくない娘の対比が印象深い。震災から10年以上経ってからの描き方に工夫を感じる。汐風さんの好きだった曲をピアノで奏でるシーンは鬼気迫っており、それが「ポニョ」であることで時間の流れの残酷さを表現する印象的なシーンだった。

全盲先生から生徒へ ～ラストメッセージ～

制作：テレビ朝日

選出理由

高齢者、障がいの有無等、年齢や社会的マイノリティに関係なく生活や権利が保障された環境を作っていく「ノーマライゼーション」の事例として秀逸である。目の前に障がい者がいて、自分がどう対峙すべきか、生徒たちは本質を学ぶことができたと思う。深く心を揺さぶられた。

カバンおじさんとアボカド ～東かがわ発！地域の技を未来へ～

制作：西日本放送

選出理由

二次産業でのIターン事例として、地方創生の良いモデル。家事や子育てをしながら、伝統産業の維持・発展に寄与しており、記憶を形にするものづくりは付加価値が高く、真面目な主人公の人物が形に現れていて好印象。映像も美しく、地方での家庭生活をほのぼのと楽しめた。



中小機構理事長賞

地域中小企業の活力を魅力的に紹介した優秀な番組

なんでもやる！ ～高知のエジソンのDNAを未来へ！～

制作：高知放送

選出理由

先代から引き継がれた技術をさらにアップデートさせ、顧客の要望に応えることでより良い製品を生み出し、社内の活力をも生み出している姿は、他の中小企業者にとっても参考になる。業界から評価される技術力、ワークライフバランス、100%を誇る新卒定着率など働きやすさの推進、さらには従業員の技術や人間性にもフォーカスされており、魅力的な番組構成となっていた。



J Aグループ賞

持続可能な食と地域作り（地域医療・農福連携）に寄与する番組

生きがい ～障がい者支援の現場から～

制作：大分放送

選出理由

主人公の和田さんをはじめ、不慮の事故や病気で予期せぬ人生の方向転換を迫られた人たちに、施設職員がひとりひとり支援を行う様子には心を打たれるものがあった。働くことは「生きがい」と答えた和田さんの言葉はとて深く、生きることの意義について考えさせられるものがあった。相互扶助の精神のもと、社会復帰を支える医療・福祉現場にフォーカスした、大変意義深い作品である。



プロデューサー特別賞

人の営みの機微を捉えた、心に残る優れた番組

歌う葬儀屋さん ～下北半島でつなぐ命～

制作：青森放送

選出理由

一見、派手で破天荒そうな主人公が、地道に真摯に死を見つめる仕事に取り組む姿、子どもたちとのリアルな関係や主人公の過去が丹念に描かれており、深く心に響いた。理屈や意義ではなく、人の優しさ、生きる強さを感じることができる素晴らしい作品であった。



文部科学大臣賞

制作

長崎放送

報道制作部

宮路りか



牛と生きる

～長崎・鷹島…あったか家族～

長崎県松浦市の一番北にある離島、鷹島。歴史的には元寇の島として、そして最近ではアジの水揚げ日本一の松浦市にちなみ、アジフライの聖地として売り出し中です。

そんな鷹島で牛を育てている繁殖農家の大石さん一家。繁殖農家とは母牛に子牛を産ませ、9か月ほど育てた後に出荷する農家のことです。大石啓介さん(45)は農機具販売のサラリーマンでしたが、繁殖農家の2代目として、故郷鷹島に戻ってきました。牛を育てるだけでなく、家畜人工授精師としても今では鷹島になくはならない存在です。妻の恵子さん(48)は、サラリーマンと結婚したはずだったのに、気が付けば牛を育てること…。最初は牛が怖くてたまらなかつたそうです。

牛の話にとどまらず家族の物語にしたいと思いましたが。大石家の末っ子、煌太郎さんの夢は料理人けれど夏休みのお手伝いで、煌太郎さんの気持ちに変化が生まれます。煌太郎さんの存在はこの番組のカギになりました。もうひとつが障がいをもって生まれた牛のザックくん。普通、商品にならない牛は処分されるのですが、恵子さんはザックくんの生命力に惹かれ育て続けます。そして、恵子さんの大きな決断。生と死が同居する牛小屋で私を感じたことを番組に込めたつもりです。

放送後、京都から大石家を訪ねてくださった方がいらしたとご夫妻が嬉しそうに話してくださいました。おふたりの牛飼いととしての矜持が伝わっていたなら、制作者としてとても幸せです。



総務大臣賞



制作

山陰放送

制作局制作部

南脇 亮太

DAISEN

ふわふわニコニコ大山ライフ

～都会から来た風来坊～

標高1729メートル、中国地方最高峰・大山。

四季を通して雄大な姿を見ることが出来ます。その大山を仕事場兼遊び場として、観光プロデュース業を営む佐々木正志さん。東京都の出身で「山から海までが近く、紅葉と雪など、コンパクトなエリアで2つの季節が楽しめる、漫画みたいな場所」と、8年前にひとめぼれ同然で大山へ。「大山にある魅力あるモノは、そこに住む人のモノ、その魅力的なモノを使つて事業を立ち上げるならば、地元の方々との関係性が大事」と語り、大山周辺に暮らす人々と共に働き・暮らし、交流を深めました。現在は、周辺の観光資源を使い、オーグーメイドツアー・野菜の通信販売・シェアハウスなど様々な事業を立ち上げ今では自らが立ち上げた事業の他、商工会女性部のSNS講師やクラウドファンディングのサポーターなど、大山周辺の様々な所から仕事のオフアワーが届きます。

取材を続けるほどに「本業は？これで生活できるの？」と心配になる部分もありましたが、彼の「やりたいことを全力で楽しみながらやる」そんな姿・笑顔を見ると「まあなんとかなってんだらうな」と、こちらもフワフワとした気持ちに。ですが、こちらの心配をよそに事業は順調で利益も右肩上がりなんだとか。トレードマークはオレンジ色のTシャツと明るい笑顔、フワフワとニコニコと遊んでいるようで働いている？そんな、佐々木さんの大山ライフにこれからも注目したいと思います。



民教協会会長賞

制作

中国放送

株式会社RCCフロンティア 山本和宏



被爆樹木の声を聴く ～広島の永遠のみどり～

「木の声を聴きなさい」被爆樹木を守る樹木医の堀口力さん（77）が大切にしている言葉。堀口さんは取材で「お金をかけ過ぎてはいけない」「上から目線では見えてこないものがある」「言葉に出せばしんどくなる」：様々な事に通じる普遍的な言葉を語ってくれました。

原爆が投下され14万人が犠牲になったとされる広島。焼け野原となり「75年、草木も生えない」といわれた土地ですが命を吹き返し、今も生き続けているのが被爆樹木です。広島市からの委託で160すべての木を手入れしている堀口さん。樹木医の仕事は、腐った枝の剪定や適切に肥料を与え、樹勢を回復させること。番組では根の腐りが進行している桜の治療に密着しました。

さらに、木から生きる希望をもらったという被爆者の北川建次さんを取材。被爆者の平均年齢が84歳となる中、被爆樹木について語るができるのは北川さんだけに…。被爆体験とともに、緑のチカラについても語ってくれました。

一方で枯れてしまい、役目を終えた木は楽器となり、平和への願いを奏でます。四季の映像美と子どもたちの演奏するパンフルートの音色がウクライナ侵攻の出口に少しでも光を灯してほしいという思いを込め制作しました。

戦争で失われ、土に還った命…。そのエネルギーの循環を感じることができる被爆樹木。ほとんどの木は、近づき触れることができます。広島にお越しの際はぜひ「木の声」を聴いてみてください。



中小機構理事長賞

制作

高知放送

報道制作局長

植村 浩史



なんでもやる！ ～高知のエジソンのDNAを未来へ！～

産業用機械からユニークなロボットまで、さまざまなモノづくりで「高知のエジソン」と呼ばれた経営者がいました。故・垣内保夫さんです。その「エジソン」のDNAを受け継ぐ企業が高知県にある1952年創業の「垣内」。国内だけでなく海外にも事業展開する一方で、従業員に対するワークライフバランスの分野でも高く評価されている元気な企業です。

そんな垣内の主力製品のひとつが「粒造くん」です。「エジソン」が開発した粉状のものを固めて粒りゅうぞうくん「ペレット」にする機械。こうしたネーミングに、自社製品への愛が垣内見えます。番組では、粒造くんの販売をリードするベテラン営業の野中さんと、開発担当の秦泉寺さんにスポットを当てました。この2人に共通するモノ（企業文化とも言い換えられる）は、顧客のリンクエストへの徹底的な向き合いです。既存のオプションにとらわれないアイデア（番組で紹介したミラーの取り付け）の提案など、まさに何でもやる精神です。番組では、2人の「仕事ON」だけでなく、「休みOFF」にも注目しました。

家族とのコミュニケーションを欠かさない野中さん。かたや、夫婦の役割分担と、自らクルドダウンする時間を大切にする秦泉寺さんとそれぞれですが、こうしたOFFの充実が、ONの充実にも繋がっていました。「高知のエジソン」から受け継がれたDNAのうち「変わらないモノ」。それは「顧客ニーズへの徹底的な向き合い」です。一方で「変わるモノ」は、時代の変化にあわせた「ワークライフバランスの充実」です。この2つの両立に、これからの「地方」「中小」が託すべき将来の発展があるのではないのでしょうか。



制作

大分放送

メディアコンテンツ局
コンテンツ部長

藤澤 真由美



生きがい ～障がい者支援の現場から～

番組の舞台は大分県別府市にある「社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンター」。

病気や事故で脳に損傷を負い後遺症のある人が、自立した生活を送れるよう、さまざまな訓練をおこなうリハビリテーション施設です。中でも「障害者支援施設にじ」は、日常生活のリハールサル場として掃除や洗濯など身の回りのことは利用者自身で行います。

同施設の職員として働く主人公の和田大輔さんも「にじ」の元利用者。脳出血を発症したのは30代後半の働き盛り。発症直後は社会復帰をあきらめていましたが、自身の努力と施設スタッフの支えで就労に至り社会復帰を果たしました。週末の晩酌を楽しみに日々仕事に励む和田さんの姿を見て、誰かに必要とされることや日常の些細な喜びが生きる希望につながることを知りました。

放送後「にじ」の職員の方々からお便りをいただきました。「世の中の人は皆、いろいろな悩み・苦しみを背負って生きています。それでも笑顔でしっかりと前を向いて歩いていることがすばらしいと感じる番組でした。私たちはあらためて障がいのある方々の未来に真摯に向き合っていこうと決意しました」と書かれてありました。コロナ禍にもかかわらず取材にに応じてくださった施設の皆様へ感謝申し上げます。医療・福祉現場で障がいのある人々をサポートしているすべての方々にエールを送りたいと思います。



奨励賞

株式会社プライド・トゥ

齊藤 正

制作

山形放送



幸せの夢をよぶ

～山形唯一のミニデパート物語～

ナレーションを務めた橋本せつさんは、南銀座池田のすぐそばに住んでいます。「若い頃からよく『ごろべー』に買い物に行ったのよー」と収録の時、庄内訛りで教えてくれました。池田の屋号は五郎兵衛といい、地元鶴岡では「ごろべー、ごろべー」と呼ばれています。

ペリーの日本来航は今から170年前、南銀座池田はその前年に創業しました。鶴岡市を治めた庄内藩は戊辰の役で、会津と同じく、最後まで幕府側につき戦いました。そして明治、大正、昭和の間に二度の世界大戦。東北の地方都市とはいえ「ごろべー」は激動の時代を生き抜いてきたわけです。武士やら、町人やら、軍人やら、百姓やら、市民やら。お客の総称は時代によって変わったのですが、170年もの間「ごろべー、ごろべー」と呼ばれてきたわけです。

どこか親しみとかわいさのあふる語感、ごろべー。人間の寿命よりもはるかに生き続けてきた「老舗」のチカラに改めて感嘆しました。



奨励賞

情報センター制作部

手塚 孝典

制作

信越放送



ゆうな 汐風に吹く風

～福島・原発の町からのメッセージ～

福島第一原発の事故から11年になる3月12日。木村紀夫さんは、津波にのまれ遺骨の一部しか見つかっていない次女の汐風さんを探していました。帰還困難区域になった福島県大熊町の自宅跡で、家族のために慰霊碑を建て、命の営みが感じられる場所にしたと手入れする日々。止まったままの時間が流れる残酷な現実を生きていました。

汐風さんの誕生日に、遺品の鍵盤ハーモニカで思い出の曲を練習して自宅跡で演奏する場面があります。長女の舞雪さんが震災後はじめて故郷に戻った日でもありません。二人とも今も震災のなかを生き、何かを乗り越えたわけではありません。ただ、少しかげなくなった家族に近づけたように感じて胸が熱くなりました。

事故から12年、政府は原発の再稼働と新設を決めました。放射能が隔てる世界の理不尽さに楔を打ち、抗うために、あの場所に留まり生きる木村さんの姿を、静かに語る言葉を、伝え続けなければならぬと、思いを強くしています。



奨励賞

制作

株式会社フレックス

猿渡 研二

テレビ朝日



全盲先生から生徒へ ～ラストメッセージ～

多かれ少なかれ、誰しも他人に比べて足りないものがある。持っていたのに途中で失くすこともある。そのことに直面した時、どう振舞えばいいのか。

38歳の時に突然、視力を失ったヨシノリ先生。絶望して自ら命を絶とうとします。「自分で死んで逃げるなんて許さない！」と妻・真弓さん。「ちょっと待ってて！」と言って妻がとった行動：関西に目に効く神社があると聞けば拜みに行き、買えばご利益があるという印鑑か何か、それもこれも全部買ってみて、「全部やったら気が済みました。受け入れて前を向くしかないでしょ？」と笑って当時は振り返りません。

全盲の先生が教壇に戻ろうとした時、反対して不安をあらわにしたのは同じ教師や保護者のほうで、先に受け入れて変わっていったのが生徒たちだったということも印象的でした。

失くしたものの大小によっては簡単に受け入れられないことも確かですが、先人の名言「さよならだけが人生だ」が心に沁みます。



奨励賞

制作

報道制作局
香川報道制作部

松村 文彦

西日本放送



カバンおじさんとアボカド ～東かがわ発！地域の技を未来へ～

手袋作りが盛んな香川県東かがわ市で、カバン職人として奮闘する主人公・山口洋平さん。手袋職人として今も活躍する義母の生き方が、埼玉から移住してきた山口さんに影響を与え、子育てをしながら自宅でカバンを作ること、アボカド栽培、ランドセルリメイクにつながっています。

「地方でしかできない形を自身の実験台となり、発信したい。地域活性化につなげたい」という山口さんの思いを全国へ届けたい気持ちで、日々向き合っていました。

放送後、全国からランドセルリメイクの依頼が多く寄せられ、「修学旅行に行けなかった子どもをさせたい」「亡くなった子どもの形見をあなたに託したい」「障がい者用ランドセルのリメイクをお願いしたい」など、想定しなかった反響も寄せられ、ランドセルリメイクの新たな可能性が広がりました。

テレビを通して、地域で挑戦する人々たちを後押しできる。テレビのチカラを実感した次第です。



歌う葬儀屋さん ～下北半島でつなぐ命～

「人は見かけによらない」
当たり前という言葉ですが、メン
ソーレ川端というキャラクター
の裏にこんなストーリーがあつ
たとは…。

歌手と葬儀、北国とメンソーレ。
まるで陰と陽のようなコント
ラストが魅力的だった川端さん
放送には入れられなかった部分
ですが、芸名の由来にもなった
顔立ちは子どもの頃にいじめを
受けたりして、一時、不登校に
もなったそうです。大人になって
自身の個性を受け入れ、むしろ
強みにしていけるようになった
のは、周囲の仲間たち、そして
家族の存在があるからだと話し
ていました。

放送後、勢いにのった川端さ
んは趣味を活かしたイベントを
開催しました。過疎が進む村に
全国各地からバイク乗りを集め、
バイク300台が大パレード。
沿道で手を振るおばあちゃんた
ちや、普段は静かな村通りに響
くエンジン音というアンパラン
スさでしたが、地域の賑わいが
戻ったと好評でした。そんな
川端さんの姿が地方の勇気にな
る様子を、今後も追い続けます。

番組トピックス

「日本のチカラ」、「民教協スペシャル」といった民教協の番組をベースにした各局のドキュメントが、
本年度も数々の賞を受賞しました。



「おひさま家族 ～りんくん一家の17年～」

制作：静岡放送

・ニューヨーク・フェスティバル ドキュメント部門ブロンズ賞受賞（22年4月）



「ハマのドン “最後の闘い” 一博打は許さない」

制作：テレビ朝日

・放送人グランプリ 2022（第21回）グランプリ優秀賞（22年5月）
・第23回「World Media Festivals」ドキュメンタリー部門 銀賞（22年6月）



「笑って生きる一生 ～ALS患者がつくるグループホーム～」

制作：静岡放送

・第64回科学技術映像祭 教育・教養部門優秀賞（23年3月）

日本のチカラ 2022年度放送リスト

NIPPON NO CHIKARA

#	東京地区放送日	タイトル	制作局
295	4月16日(土)	歌う葬儀屋さん～下北半島でつなぐ命～	青森放送
296	4月23日(土)	全盲先生から生徒へ～ラストメッセージ～	テレビ朝日
297	4月30日(土)	汐風に吹く風～福島・原発の町からのメッセージ～	信越放送
298	5月7日(土)	木こりシンガー～森と人生の讃歌～	北海道放送
299	5月14日(土)	海のごみを“宝物”に！～キラリ輝く男の未来～	メ～テレ
300	5月21日(土)	“いかさま手品師”全力疾走～笑う食堂に福来たれ～	秋田放送
301	5月28日(土)	青い鳥のカフェ～ひきこもりからの一歩～	テレビ朝日
302	6月4日(土)	笑って生きる一生～ALS患者がつくる夢のグループホーム～	静岡放送
303	6月11日(土)	今治発！大人気産直市の秘密～スゴ腕農家とママ・パティシエ～	南海放送
304	6月18日(土)	佐渡に癒されて…～移住親子の野草茶づくり～	新潟放送
305	6月25日(土)	生きがい～障がい者支援の現場から～	大分放送
306	7月2日(土)	被爆樹木の声を聴く～広島の永遠のみどり～	中国放送
307	7月9日(土)	おっちゃんたちの夢～祇園祭…196年ぶりに復活する鷹山～	朝日放送テレビ
308	7月16日(土)	未来へのゴング～私のプロレス青春記～	日本海テレビ
309	7月23日(土)	がれきに花を咲かせましょう！～震災オブジェと子どもたち～	山形放送
310	7月30日(土)	心配するな、なんとかなる！～大衆演劇でめざすまちの元気～	北陸放送
311	8月6日(土)	幸せの夢をよぶ～山形唯一のミニデパート物語～	山形放送
312	8月13日(土)	甘くてシャリシャリ！小玉スイカ～紀州発！情熱と人でつなぐ未来～	朝日放送テレビ
313	8月20日(土)	この豚肉 うまいにい！～ご縁を結ぶ仲よし家族～	メ～テレ
314	8月27日(土)	俺たち ウォーターボーイズ!! 僕は見つけた	山口放送
315	9月3日(土)	ふわふわニコニコ大山ライフ～都会から来た風来坊～	山陰放送
316	9月10日(土)	カバンおじさんとアボカド～東かがわ発！地域の技を未来へ～	西日本放送
317	9月17日(土)	輝かしい未来へ！～ストレリチア(極楽鳥花)復活への道～	琉球放送
318	9月24日(土)	あのとうふとってける～宮城発！金融移動店舗車ものがたり～	東北放送
319	10月1日(土)	醸すは奇跡の味～陸前高田発！発酵テーマパークの未来～	IBC岩手放送
320	10月8日(土)	晴れやかに私らしく～35歳女性僧侶の決意～	宮崎放送
321	10月15日(土)	希望のリンゴ～長野・台風災害からの再出発～	信越放送
322	10月22日(土)	なんでもやる！～高知のエジソンのDNAを未来へ！～	高知放送
323	10月29日(土)	スーパー保育士バムちゃん	沖縄テレビ
324	11月12日(土)	あせるな！はぶくな！むりするな！～沖縄発！躍進するカット野菜工場～	琉球放送
325	11月19日(土)	切り拓け、一本道～マウンテンバイクで里山再生～	北日本放送
326	11月26日(土)	牛と生きる～長崎・鷹島…あったか家族～	長崎放送
327	12月3日(土)	食育戦隊 コメンジャー～農家はヒーロー！集え後継者～	RKB毎日放送
328	12月10日(土)	新島日記～ふたりぼっちの島暮らし～	南日本放送
329	12月17日(土)	いけだのそら～笑顔きらめく希望の町～	福井放送
330	1月7日(土)	ゆるゆる山暮らし～ピリリな刺激の山椒ライフ～	熊本放送
331	1月14日(土)	生ききる～ALSかあちゃんの泣き笑い日記～	山陰放送
332	1月21日(土)	“海老道”まっしぐら！～海なし県でエビ養殖はじめました～	山梨放送
333	1月28日(土)	オベ室から大地へ！～外科医は農家になった～	北海道放送
334	2月4日(土)	神社の新時代～Yシャツ神主 奮闘記～	福島テレビ
335	2月11日(土)	たかが米、されど米～米穀店6代目の粘り～	四国放送
336	2月18日(土)	地の涯“大いなる教室”～羅臼高校の感動授業～	北海道放送

「日本のチカラ」は以下の地上波、BSの各放送局でもご覧いただけます。

- BS朝日 毎週金曜日 5:25～
- 群馬テレビ 毎週土曜日13:30～(日曜日再放送)
- TOKYO MX 毎週月曜日 9:30～ ※番組編成は変更する場合がございますのでご了承ください。



第58回 テレビのチカラ全国大会

2022年11月12日（土）あきた芸術劇場ミルハス 中ホール

主管局：秋田放送

全国大会

大会テーマ



ウィズ・コロナの羅針盤
～田舎暮らしのニューノーマル～



新型コロナ禍に翻弄されて3年。ウィズ・コロナが当たり前になり、新しい生活様式の模索が続く中、「本当のしあわせ」「本当の豊かさ」が問い直されています。3年ぶりの開催となった全国大会のテーマ「ウィズ・コロナの羅針盤～田舎暮らしのニューノーマル」は、そんな渦中の必然のように生まれました。

悪疫退散の願いを込めたなまはげ太鼓のオープニングアクトで幕を開けた大会は、基調講演とパネルディスカッションの2部構成で統一テーマと大会テーマに迫りました。

第1部の基調講演は、1年前にヨットでの太平洋単独無寄港往復の偉業を成し遂げた辛坊治郎さんが「太平洋のど真ん中で独り感じた『しあわせ』と『豊かさ』」をテーマに講演しました。この中で、2013年に絶体絶命の遭難から九死に一生を得る生還で悟った人生哲学などをユーモアを交えながら語りました。

第2部のパネルディスカッションは、橋本五郎さん、佐藤裕之さん、高橋希久美さん、相場詩織さんをパネリストに迎え、洋上風力発電を軸にしたローカル産業革命が起ころうとしている秋田の未来とウィズ・コロナの田舎暮らしについて熱い議論を交わしました。そして、一人ひとりが本当のしあわせと豊かさへのそれぞれの思いを語って3時間に及ぶ大会を締めくくりました。

大会から数か月がたちました。なのに、辛坊さんが10年前に命を救われたという救命いかだの「もやい綱の小さな結び目」の奇跡が頭から離れません。そして、なぜか今尚、私の手の平にももやい綱の小さな結び目が記憶の感触として残っています。

取締役 報道制作局長 工藤 正直



プログラム

▶司会

田村 修（秋田放送アナウンサー）
林 さくら（秋田放送アナウンサー）

●オープニングアクト 「なまはげ太鼓」

第1部 基調講演

「太平洋のど真ん中で独り感じた『しあわせ』と『豊かさ』」

辛坊 治郎（元民放解説委員長・海洋冒険家）

●アトラクション 「劇団わらび座」

第2部 パネルディスカッション

「ウィズ・コロナの羅針盤～田舎暮らしのニューノーマル～」

▶パネリスト

辛坊 治郎（元民放解説委員長・海洋冒険家）
橋本 五郎（読売新聞特別編集委員）
佐藤 裕之（風力発電事業会社代表）
高橋希久美（全日本空輸客室乗務員）
相場 詩織（フリーアナウンサー）

▶コーディネーター

田村 修（秋田放送アナウンサー）

テレビのチカラ 北海道・東北・関東・甲信越地区大会 2022 長野

2022年11月5日（土） JA長野県ビル アクティーホール

主管局：信越放送

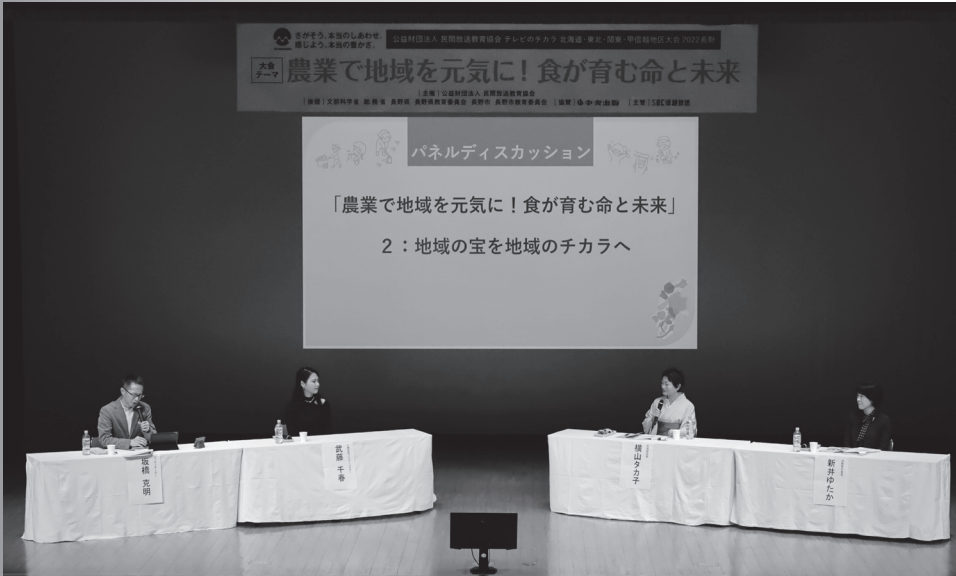


地区大会
長野大会

大会テーマ



農業で地域を元気に！
食が育む命と未来



今大会は当初 2020 年の実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大という予期せぬ出来事で2年の延期となりました。またこの間、長野県では2020年秋の台風19号による大水害があり、紆余曲折を乗り越え、満を持しての開催となりました。

大会は、台風災害から復興を遂げたリンゴ農家を追った弊社制作の「日本のチカラ」の上映で幕を開けました。「農業で地域を元気に！」という大会テーマそのもののような番組でした。続くオープニングアクトは、全国書道甲子園で3連覇を成し遂げた、松本蟻ヶ崎高校書道部による元気いっぱいのパフォーマンス。食の大切さを「富源」という大きな文字で表現してくれました。そして、第1部は、小諸市で農業や地域おこしに取り組むアーティスト・武藤千春さんとフリーアナウンサーの坂橋克明さんのトークセッション。「農ライフ」と称し、気負わない独自の感覚で農業を行い、SNSでの情報発信や手作りのイベントで地元を盛り上げる武藤さんの行動力が印象的でした。後継者不足が深刻な地方の農業に若者を呼び戻すためのヒントがちりばめられたトークとなりました。第2部のパネルディスカッションでは、伝統的な食文化を研究する料理評論家の横山タカ子さん、長野市出身で、長く農林水産省で農業政策に携わってきた消費者庁長官の新井ゆたかさんが加わり、地域ごとの食材や食育の価値について議論を深めました。農業県である長野でも、このようなテーマを正面から議論する機会はなかなかなく、改めて地域のみなさんと学び、語り合う貴重な場となりました。

テレビ局 編成業務部長 池上 英樹



プログラム

▶司会
山崎 彩奈（信越放送アナウンサー）

●オープニングアクト
「書道パフォーマンス」長野県松本蟻ヶ崎高校書道部

第1部 トークセッション

「畑、始めました～農ライフ農ドリム～」
武藤 千春（小諸市農ライフアンバサダー）
×
坂橋 克明（長野市出身・フリーパーソナリティ）

第2部 パネルディスカッション

「農業で地域を元気に！食が育む命と未来」

▶パネリスト
武藤 千春（小諸市農ライフアンバサダー）
横山タカ子（長野市出身・料理研究家）
新井ゆたか（長野市出身・消費者庁長官 元農林水産審議官）
▶コーディネーター
坂橋 克明（長野市出身・フリーパーソナリティ）

テレビのチカラ 中部・北陸・関西・中国地区大会 2022 米子

2022年10月1日（土）米子市文化ホール
主管局：山陰放送

地区大会
米子大会

大会テーマ



Withコロナ
ニューノーマルは田舎暮らしで



新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となりました今回の米子大会、準備期間中は感染の懸念により山陰両県でも各種イベントの中止が相次ぐ等、本当に開催出来るのか？本番直前まで心配致しましたが、何とか開催にこぎつける事が出来ました。

今回の大会テーマは、コロナ禍で働き方やライフスタイルが変化中、地方で生き生きと働き生活する事の素晴らしさや田舎暮らしを地方の活性化につなげようとする取り組みを紹介する「With コロナ ニューノーマルは田舎暮らしで」と致しました。

第1部は現在東京、山梨、静岡に居住するフリーアナウンサーの富永美樹さんが「私流ライフスタイル～3拠点暮らしが広がってくれた私の世界～」と題し講演。アウトドアをはじめ自らの充実したライフスタイルや地方ならではの人と人のつながりの素晴らしさについて語りました。

第2部のパネルディスカッションでは、東京から地域おこし協力隊に応募し鳥取県の大山に移住した後、観光プロデューサーとして活躍する佐々木正志さんが自身の取り組みについて、また宮城県から大学進学をきっかけに島根県に住み続けるライターへのイ子さんが島根生活の魅力について語りました。また、地域・教育魅力化プラットフォーム事務局長の尾田洋平さんは、「地域みらい留学」という活動で山陰の高校と全国の高校を繋ぎ都会から生徒を招いて来るといった取り組みを紹介しました。そして、エリア外の人の現地に無い感覚や価値観を受け入れる事の重要性と、地元を好きになってもらうための土壌づくりと、そのためには地元住民が笑顔で生活する事が大切と呼びかけました。

執行役員 編成局長 山根 貴司



プログラム

▶司会
丸山 聡美（山陰放送アナウンサー）

●オープニングアクト
「山陰少年少女合唱団トルフェニックス」

第1部 基調講演
「私流ライフスタイル
～3拠点暮らしが広がってくれた私の世界～」
富永 美樹（フリーアナウンサー）

第2部 パネルディスカッション
「地方の暮らしで探す新しい生活・働き方とは…」

▶パネリスト
富永 美樹（フリーアナウンサー）
佐々木正志（観光プロデューサー）
へイ子（在宅ライター）
尾田 洋平（一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム
常務理事・事務局長）

▶コーディネーター
宇田川修一（山陰放送アナウンサー）

テレビのチカラ 四国・九州・沖縄地区大会 2022 香川

2022年10月15日（土）かがわ国際会議場
主管局：西日本放送



地区大会
香川大会

大会テーマ

瀬戸の恵みを未来のチカラに



瀬戸内海に面し、讃岐うどんだけじゃないアート県としての姿も持つ香川県。本大会は、地域が持つチカラの再発見、そして地域活性化のヒントを探るため、「瀬戸の恵みを未来のチカラに」をテーマとしました。

第1部の基調講演では、おじい様が香川県坂出市出身で、アート県・香川のアンバサダーを務める演出家の宮本亜門さんに「新型コロナを経て向き合う、これからの生き方」を熱く語っていただきました。

「死を想うこと」「人とのつながり」「アートの力」「自身の闘病経験」などを交えつつ、どんな状況であっても、遠くから物事をとらえ、自身を客観視し、世の中のために自分は何ができるのかを考える大事さを伝えていただきました。

また、「POWER～小さな県から大きなチカラを～」と題したパネルディスカッションでは、教育や子育て、地場産業など、香川県内各界で活躍するパネリストが登壇。新型コロナのような大きな出来事が、物事を見つめ直す契機であるとともに、新たなことを起こす事業機会の契機であるという事例や、「アントレプレナーシップ」と呼ばれる起業家精神について紹介。ひとりひとりが身の回りのちょっとした困りごとを解決していくことが、多くの人の困りごとを解決し、幸せの連鎖を生み出すことにつながると訴えました。

そして、日本のチカラにも出演されたカバン職人の山口洋平さんからは、亡くなられたお子様のランドセルのリメイクを自身に託してくれたという、放送後のエピソードを紹介いただき、テレビが生み出す共感力の深さを伝えていただきました。まとめでは、テレビ局の日々のたゆみない取り組みを通して、地域に対する愛着心の醸成の必要性を呼びかけました。

報道制作局 香川報道制作部 松村 文彦



プログラム

▶司会
松田 愛里（西日本放送アナウンサー）

●オープニングアクト
「少林寺拳法演武」

第1部 基調講演

「コロナ禍を経て、求める幸せとは
～体験・物語から共感へ～」
宮本 亜門（演出家）

第2部 パネルディスカッション

「POWER～小さな県から大きなチカラを～」

▶パネリスト
宮本 亜門（演出家）
原 真志（香川大学大学院 地域マネジメント研究科長）
山口 洋平（アトリエリップル 代表）
中橋恵美子（認定NPO法人わははネット理事長・
讃岐おもちゃ美術館館長）

▶コーディネーター
鴨居真理子（西日本放送アナウンサー）

「子ども未来プロジェクト実施検討会議」にて今後について検討

コロナ禍後の事業再開を決定

小学校授業支援事業は、公益財団法人 民間放送教育協会の「未来を担う子どもたちの育成事業」として2009年度にスタートしたもので、2011年度からは文部科学省後援の事業となっています。加盟各社がそれぞれの地域の教育委員会と連携しながら、小学校の校長・担当教員の協力を得て、授業のカリキュラムとして組み込む中で行う子どもたちに向けたメディアリテラシー教育を10年以上続けてまいりました。

しかし、2020年に日本に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年度、2021年度と中止、2022年度も同じく中止となり、3年連続で実施できませんでした。

この状況を打開するために、2022年4月に加盟局有志からなる「子ども未来プロジェクト実施検討会議」を新設し、2023年度以降の方向性を参加メンバーで議論してまいりました。



オンライン（Zoom）で8回の「子ども未来プロジェクト実施検討会議」を開催した。

その結果、実施校や実施局の負担を軽減し、実施しやすい形式とすることで小学校授業支援事業は継続することで合意し、2023年3月1日の理事会において承認されました。

2023年度の実施に向けて準備を進めてまいります。

公益財団法人 民間放送教育協会では、2011年度より、「子ども未来プロジェクト」の一事業として、加盟する放送局の協力を得て、「読み聞かせ事業」を実施しております。

この事業は、2011年3月11日に起きた東日本大震災により、被災地のみならず、その他の地域の子どもたちも緊張や不安が高まり、心に傷を受けていたことをきっかけに、放送事業者として心のケアにどう取り組んでいけるのかを加盟各局で検討してスタートしたものです。今年度も、文部科学省後援の事業となっております。

2020年より日本に拡大した新型コロナウイルス感染症により「読み聞かせ事業」の継続は危ぶまれましたが、従来の会場での対面方式だけでなく、オンラインを活用したりモート読み聞かせ、読み聞かせ番組のWeb配信、同DVD配布など、加盟各局が工夫を凝らすことで継続を模索し、その結果2020年度も23局が実施し、2021年度も23局、さらに2022年度は26局と過去最大の実施局数となりました。

2022年度 「読み聞かせ」事業実施局（26局）

北海道放送	青森放送	IBC 岩手放送	秋田放送	山形放送	福島テレビ
新潟放送	北日本放送	北陸放送	福井放送	信越放送	山梨放送
静岡放送	朝日放送テレビ	日本海テレビジョン放送	山口放送	西日本放送	
四国放送	RKB 毎日放送	長崎放送	大分放送	熊本放送	宮崎放送
南日本放送	沖縄テレビ放送	琉球放送			

今後も、放送事業者としての特性を生かし、多くの地域で「読み聞かせ事業」を継続していきたいと考えております。





民教協からのお知らせ



学校教育・生涯学習に 番組DVDの貸し出しをご活用ください。

民間放送教育協会では、番組を使って授業を行う場合に番組DVDの貸し出しを行っております。2022年度は22作品が合計29回、貸し出されました。

貸出件数	29回		
視聴人数	2,858人		
貸出作品	22作品	日本のチカラ	15作品
		発見！人間力	3作品
		民教協スペシャル	4作品

複数回の貸し出しがあった人気作品は以下の通りです。

貸し出し回数	作品名	目的(抜粋)
5回	第26回 民教協スペシャル 「生きることを選んで」	<ul style="list-style-type: none"> ・大学福祉コース講義内において、肢体不自由の理解を促進するため ・看護学校で、神経難病の患者さんの対象理解を目的とした臨地実習の導入に使用 ・高等学校看護科の看護臨地実習（成人・老年看護実習）の校内代替授業で使用 ・リハビリテーション専門職を養成する大学にて、学生に対してALSの理解を深めるため ・看護専門学校・在宅看護方法論の授業で難病患者についての理解のため使用
2回	第33回 民教協スペシャル 「想画と綴り方 ～戦争が奪った子どもたちの“心”～」	<ul style="list-style-type: none"> ・教育大学の人権教育論の授業 ・教員養成課程の授業「教育原理」
2回	第35回 民教協スペシャル 「おひさま家族 ～りんくん一家 10年の記録～」	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業で使用するため（小学5年生） ・道徳の授業（小学5年生）
2回	日本のチカラ #302 笑って生きる一生 ～ALS患者がつくる夢の グループホーム～	<ul style="list-style-type: none"> ・病院での緩和ケア委員会の勉強会と院内研修会



小・中学校での道徳の授業や修学旅行の事前学習、大学や高等学校、看護学校における講義内での視聴など、学校や教育・研究機関、福祉団体などの非営利の団体の皆様に、番組をご活用いただいております。

貸し出し作品は、

「日本のチカラ」・「日本！食紀行」・「学びEye！」・「発見！人間力」・「民教協スペシャル」です。

貸し出し方法、番組の内容は当協会ホームページ「番組貸し出し」をご覧ください。

(注) 貸し出しは著作権の範囲内で行っています。

2023年度 公益財団法人民間放送教育協会 理事・監事・評議員名簿

2023年3月23日現在（敬称略）

理事（18名）				
会 長	吉永みち子		ノンフィクション作家	
副 会 長	中村 耕治	（株）南日本放送	取締役相談役	
理 事 長	武田 徹	（株）テレビ朝日	取締役副会長	
常 務 理 事	高田 覚	（株）テレビ朝日	常務取締役	
理 事	石渡 弥	（株）電通	ラジオテレビ局長	
	板垣 正義	山形放送（株）	代表取締役社長	
	猪俣 知三	（株）大分放送	代表取締役社長	
	上野 淳	（株）熊本放送	代表取締役社長	
	大西 康司	南海放送（株）	代表取締役社長	
	鎌田 英樹	（株）IBC岩手放送	代表取締役会長	
	坂口 吉平	（株）山陰放送	代表取締役社長	
	佐竹 慶生	（株）高知放送	代表取締役会長	
	相坂 勇人	（株）博報堂 DYMP	取締役常務執行役員	
	高田 坦史	（一社）ACC（All Japan Confederation of Creativity）	理事長	
	中村 一彦	琉球放送（株）	代表取締役社長	
	野口 英一	（株）山梨放送	代表取締役社長	
	山本 晋也	朝日放送テレビ（株）	代表取締役社長	
	横山 淳	福島テレビ（株）	代表取締役社長	
	監 事（2名）			
		瀧脇 俊彦	北日本放送（株）	代表取締役社長
	池田 慶介	（株）テレビ朝日	ネットワーク局長	
評議員（17名）				
	東 晋	長崎放送（株）	代表取締役社長	
	音 好宏	上智大学	教授	
	狩野 隆也	名古屋テレビ放送（株）	代表取締役社長	
	勝田 直樹	北海道放送（株）	代表取締役社長	
	境 真理子		ジャーナリスト	
	坂元 章	お茶の水女子大学	理事・副学長	
	佐藤 隆夫	（株）新潟放送	代表取締役社長	
	立田 聡	（株）秋田放送	代表取締役社長	
	豊永 厚志	（独法）中小企業基盤整備機構	理事長	
	中村 卓朗	西日本放送（株）	代表取締役社長	
	丹羽 美之	東京大学大学院	教授	
	林 延吉	山口放送（株）	代表取締役社長	
	星野 博美		ノンフィクション作家	
	堀木 卓也	（一社）日本民間放送連盟	専務理事	
	宮迫 良己	（株）中国放送	代表取締役社長	
	森 達也		映画監督	
	若松 仁嗣	（一社）全国農業協同組合中央会	常務理事	

2022 年度 民間放送教育協会の主な活動

2022 年 令和 4 年	4 月	16 日	2022 年度「日本のチカラ」放送開始
		18 日	日本のチカラ 2022 年度第 3 回ブラッシュアップ会議（オンライン／南海放送・新潟放送・大分放送・中国放送）
		22 日	第 63 回科学技術映像祭 表彰式（教育・教養部門 優秀賞）
		25 日	第 1 回子ども未来プロジェクト実施検討会議（オンライン）
	5 月	17 日	第 2 回子ども未来プロジェクト実施検討会議（オンライン）
		23 日	日本のチカラ 2022 年度第 4 回ブラッシュアップ会議（オンライン／朝日放送テレビ・日本海テレビ・山形放送・北陸放送）
		25 日	第 127 回理事会（オンライン形式）
	6 月	9 日	第 116 回評議員会（オンライン形式）
			第 128 回理事会（書面決議）
		21 日	第 3 回子ども未来プロジェクト実施検討会議（オンライン）
		27 日	日本のチカラ 2022 年度第 5 回ブラッシュアップ会議（オンライン／山形放送・朝日放送テレビ・山口放送・メ〜テレ）
	7 月	19 日	第 4 回子ども未来プロジェクト実施検討会議（オンライン）
		25 日	日本のチカラ 2022 年度第 6 回ブラッシュアップ会議（オンライン／山陰放送・西日本放送・琉球放送・東北放送）
	8 月	23 日	第 5 回子ども未来プロジェクト実施検討会議（オンライン）
		29 日	日本のチカラ 2022 年度第 7 回ブラッシュアップ会議（オンライン／IBC 岩手放送・宮崎放送・信越放送・高知放送）
	9 月	26 日	日本のチカラ 2022 年度第 8 回ブラッシュアップ会議（オンライン／沖縄テレビ放送・琉球放送・北日本放送・長崎放送）
	10 月	1 日	「テレビのチカラ中部・北陸・関西・中国地区大会 2022 米子」（主管：山陰放送）
		4 日	第 6 回子ども未来プロジェクト実施検討会議（オンライン）
		15 日	「テレビのチカラ四国・九州・沖縄地区大会 2022 香川」（主管：西日本放送）
		19 日	日本のチカラ 2022 年度番組選奨 上期評価会議
24 日		日本のチカラ 2022 年度第 9 回ブラッシュアップ会議（オンライン／RKB 毎日放送・南日本放送・福井放送・熊本放送）	
11 月	5 日	「テレビのチカラ北海道・東北・関東・甲信越地区大会 2022 長野」（主管：信越放送）	
	11 日	2019～2021 年度「日本のチカラ」番組選奨 表彰式・全国大会 前夜祭	
	12 日	「第 58 回テレビのチカラ全国大会 2022 秋田」（主管：秋田放送）	
	15 日	第 7 回子ども未来プロジェクト実施検討会議（オンライン）	
	28 日	日本のチカラ 2022 年度第 10 回ブラッシュアップ会議（オンライン／山陰放送・山梨放送・北海道放送）	
12 月	7 日	制作責任者総会	
	12 日	日本のチカラ 2022 年度第 11 回ブラッシュアップ会議（オンライン／福島テレビ・四国放送・北海道放送）	
	13 日	第 8 回子ども未来プロジェクト実施検討会議（オンライン）	

2023 年 令和 5 年	1 月	19 日	東京支社連絡担当者会議
		20 日	第 37 回民教協スペシャル 完成試写会
	2 月	11 日	第 37 回民教協スペシャル「私の中のかげらたち～虐待を生きる 22 歳～」（制作：信越放送）放送
		17 日	東京支社長会議
		20 日	日本のチカラ 2022 年度番組選奨 下期評価会議
	3 月	1 日	第 129 回理事会
		2 日	第 38 回民教協スペシャル 一次審査会議（オンライン）
		13 日	日本のチカラ 2023 年度第 1 回ブラッシュアップ会議（オンライン／山口放送・青森放送・山形放送・信越放送）
		20 日	日本のチカラ 2022 年度番組選奨 選考会議
		23 日	第 117 回評議員会
		27 日	日本のチカラ 2023 年度第 2 回ブラッシュアップ会議（オンライン／北海道放送・中国放送・宮崎放送・朝日放送テレビ）

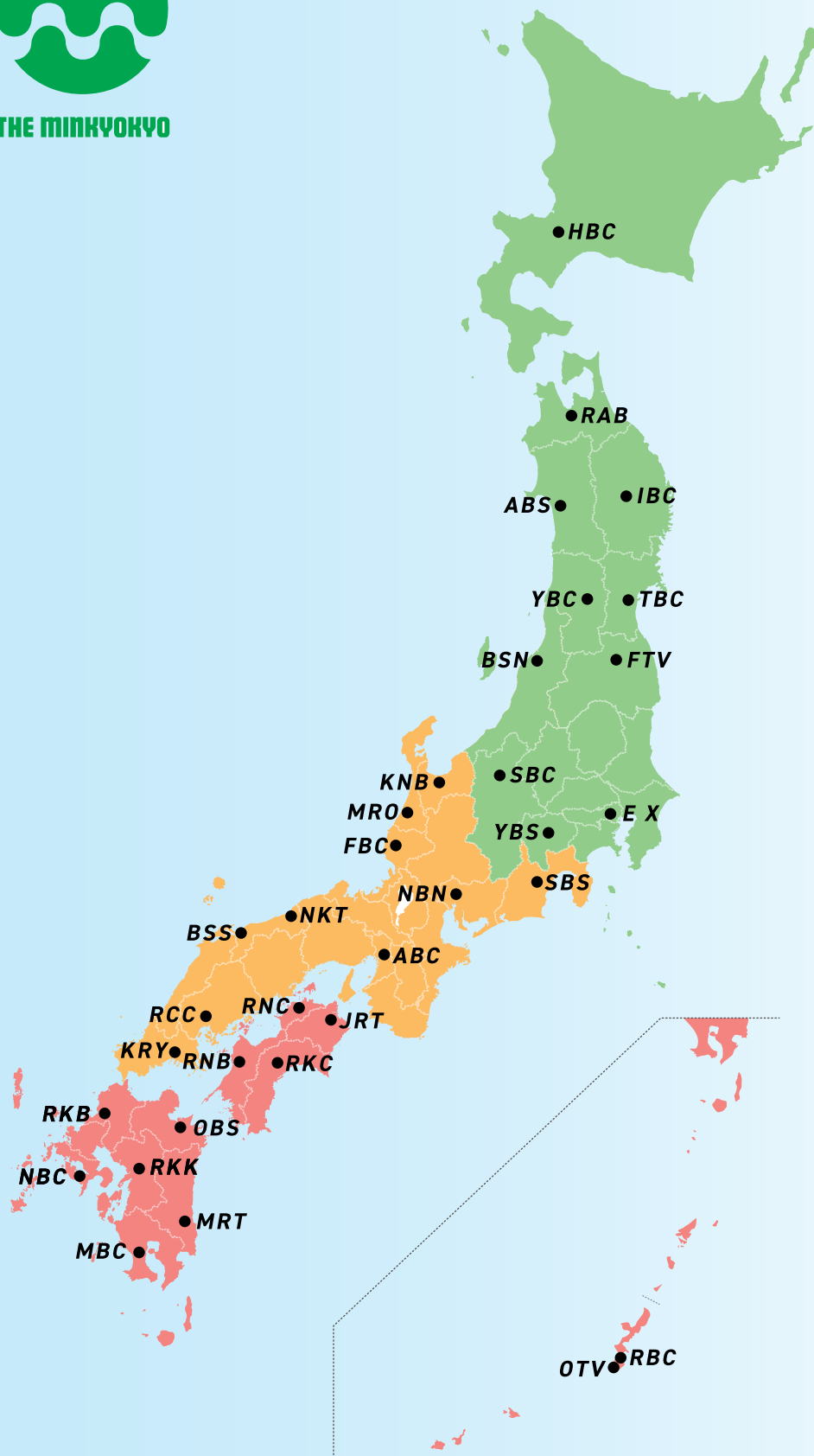


THE MINKYOKYO

民教協ネットワーク

民間放送教育協会
加盟33社

全国33局ネット



北海道・東北・ 関東・甲信越地区

北海道放送	HBC
青森放送	RAB
IBC岩手放送	IBC
秋田放送	ABS
山形放送	YBC
東北放送	TBC
福島テレビ	FTV
新潟放送	BSN
信越放送	SBC
山梨放送	YBS
テレビ朝日	EX

中部・北陸・ 関西・中国地区

北日本放送	KNB
北陸放送	MRO
福井放送	FBC
静岡放送	SBS
メ〜テレ	NBN
朝日放送テレビ	ABC
日本海テレビ	NKT
山陰放送	BSS
中国放送	RCC
山口放送	KRY

四国・九州・ 沖縄地区

西日本放送	RNC
四国放送	JRT
南海放送	RNB
高知放送	RKC
RKB毎日放送	RKB
長崎放送	NBC
大分放送	OBS
熊本放送	RKK
宮崎放送	MRT
南日本放送	MBC
沖縄テレビ放送	OTV
琉球放送	RBC

賛助会員

日本国際放送	JIB
--------	-----



<https://www.minkyō.or.jp/>

公益財団法人 民間放送教育協会

〒106-8001 東京都港区六本木 6-9-1

TEL : 03-6406-2171